

留学を終えて

岐阜北高等学校 浅野 偉雄理（アメリカ合衆国）

私は10か月間、アメリカのアリゾナ州に留学しました。アリゾナ州はメキシコとの国境沿いにある州で、州のほとんどが砂漠で、特に私の行ったフローレンスという地域はアリゾナの中でも田舎で、どこを向いても地平線が広がり、車がなければ学校やコンビニにも行けないような場所でした。



私が留学を通して学んだことは2つあります。

1つ目は人の価値観は一つではないということです。アリゾナ州はメキシコとの国境沿いにあるということもあって、アメリカ育ちの白人や黒人だけではなく、メキシコから移民としてアメリカにやってきたメキシコ系の人たちもいました。留学中、メキシコ系の友達の家遊びに行ったとき、リビングの壁に友達

が父親とお酒を飲んでいる写真がありました。これは何かと聞くとメキシコでは若いころからお酒に慣れるために、親の管理の下で大体中学生ごろからお酒を飲み始める文化があることと、写真は友達が中学生のころ初めてお酒を飲んだ時のものだと教えてくれました。アメリカではお酒は21歳からしか飲むことができないため、法的にはいけないのですが、本人たちは法律よりも自分たちのアイデンティティでもある伝統のほうが大切だと言っていました。また、アメリカの学校では日本の学校ほど学力が重視されず、逆に部活動での成績は大きく評価されます。私は留学先ではレスリング部に所属していたのですが、



試合の後などはレスリング部に関係のない先生や生徒に声を掛けられることが

ありました。このように違う文化圏で生活をしたことによって、今まで知らなかった価値観や考え方を知ることができました。

2つ目は英語でのコミュニケーションです。留学以前は、学校でしか英語に触れてこなかったこともあり、英語で会話することに苦手意識がありました。実際アメリカに着いた直後は、なかなか英語での会話に入ることができずに悩むこともありました。しかし、現地の学生との交流の中で、アカデミックな英語だけでなくより実生活で使える英語が身に付きました。特に発音やスラングは友人の口癖を真似して繰り返し使いました。そうすることで、何度もそのフレーズに触れることができるので、アクセントの位置や細かいニュアンスの使い分けができ、それぞれの英単語をより感覚的に理解することができました。このことは留学から帰った今も生きていて、新しい単語やフレーズに出会っても、以前よりすぐに覚えることができたり、推測することができたりします。また、フレーズの丸暗記は咄嗟の返答を求められる時などに役立ち、1年間しっかり聞き、真似をしたフレーズはすぐに発することができるのでとても役立っています。

私はこの留学生活を通して様々なことを経験し、多くの刺激を受け、上記に挙げた2つのことを中心に様々なことを学びました。このことは私をただ学問的な面だけでなく、人間的にも向上させてくれたと思います。

